

令和 6 年 9 月 20 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10448

研究課題名（和文）地域基盤型医療に貢献する歯科医療人養成のための多職種連携教育プログラムの構築

研究課題名（英文）Establishment of inter-professional education program for dental professionals contribute to community-based medical care

研究代表者

吉田 礼子 (Yoshida, Reiko)

鹿児島大学・医歯学域鹿児島大学病院・助教

研究者番号：60244258

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：超高齢社会における、医療環境の変化に対応して、良質な医療を提供するためには、医療の質の向上と、多くの専門職の連携が不可欠である。本研究では、歯科における多職種連携教育の現状を検証し、多職種連携医療における歯科専門職の役割とその認識、協働上の問題点を明らかにした。そのうえで、多職種と協働して、患者中心の地域基盤型医療に貢献する歯科専門職を養成するための多職種連携教育プログラムを構築し、実践、検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、歯科専門職が地域や医療チームにおいて、患者や他の専門職との効果的なコミュニケーションや連携を確立するために必要な能力が明らかになる。これをもとに、歯学学士課程における多職種連携教育プログラムを構築、実践し、さらに改善を行うことによって、多職種連携教育が歯科医学の一領域として定着し、歯科専門職のスキルアップにつながり、地域基盤型医療において患者中心のよりよい医療を実践できる歯科医療者育成に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：In a super-aged society, the improvement of the quality of healthcare and multi-professional collaboration are essential for providing quality healthcare.

In this study, the current status of Interprofessional Education in dentistry was examined. In addition, the role, recognition, and problem of the cooperation of dental professionals in interprofessional medical care were clarified. On this basis, interprofessional education was developed, implemented and validated to train dental professionals who can contribute to patient-centered community-based care in collaboration with multiple professions.

研究分野：歯学教育

キーワード：多職種連携 歯学教育 地域基盤型医療

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

人口の高齢化、社会情勢の変化に伴う医療環境の急激な変化の中で、全人的な良質な医療を提供するためには、医療人の資質向上と多様な専門職の連携が不可欠であり、地域基盤型医療の充実においても緊急に対応すべき課題である。患者を中心とした、医療分野のみならず保健や福祉分野との連携までも含む新たな医療環境モデルの在り方、すなわち「多職種連携・協働 (inter-professional work, IPW)」の重要性が高まり、その実践のために「多職種連携教育 (IPE)」の導入が推奨されるようになった。

一方、わが国の医療者教育において、連携教育の重要性は認識されつつあったが、歯学卒前教育では体系的な教育プログラムは構築されていない現状があった。また、「多職種連携・協働」を推進するための基本的能力については十分に検討されておらず、多職種と連携して地域基盤型医療を提供できる歯科医療者養成を目指した教育プログラムの構築のためには、多職種連携教育の現状を確認し、連携に対する認識や能力を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、歯科における多職種連携医療教育の現状をふまえ、多職種連携医療における歯科専門職の役割とその認識、協働上の問題点を明らかにする。また、その結果をもとに、多職種と連携をとり、患者中心の地域基盤型医療に貢献できる歯科医療者養成のための多職種連携教育プログラムの基礎を構築し、多職種連携医療の促進に寄与することを目的とする。

3. 研究の方法

1) 医歯学教育課程における多職種連携教育の現状

歯学・歯学教育者を含む全国の医療専門職、医療者教育関係者を対象としたワークショップ「これでいいの？ 歯科との多職種連携」を企画・開催し、多職種連携教育の現状と問題点を検討した。

2) 多職種連携医療における歯科専門職の役割とその認識の調査

歯学部を対象に、「チーム医療学」の受講前に、チーム医療のイメージ、チーム医療に必要な能力について、自由記述形式のアンケートを実施した。回答は、内容の共通性に基づいてカテゴリー化し、検討した。

3) 多職種連携医療における協働の問題点の抽出

医科歯科連携におけるキーワードの認識

臨床実習前の歯学生および研修歯科医を対象とし、日本歯科医学会がまとめた「医科歯科連携に必要なキーワード・リスト」を用いて、その認知状況と使用について、調査紙を用いて調査した。全ての用語ならびに10のカテゴリー別に認知状況を分析した。

歯科医師のコミュニケーションの特徴

多職種での連携が想定される患者モデルを用いて、模擬患者との医療面接、患者説明を録画し、言語・非言語情報について、RIAS(The Roter Method of Interaction Process Analysis System)他を用いて分析した。

4) 多職種連携医療を推進するモデル教育プログラムの構築と教育現場への応用

1)～3)の結果をもとに、歯学生を対象とした多職種連携医療教育プログラムを構築した。科目受講後に、歯学生のプロダクト、振り返りを分析して学習者の学びを検証した。

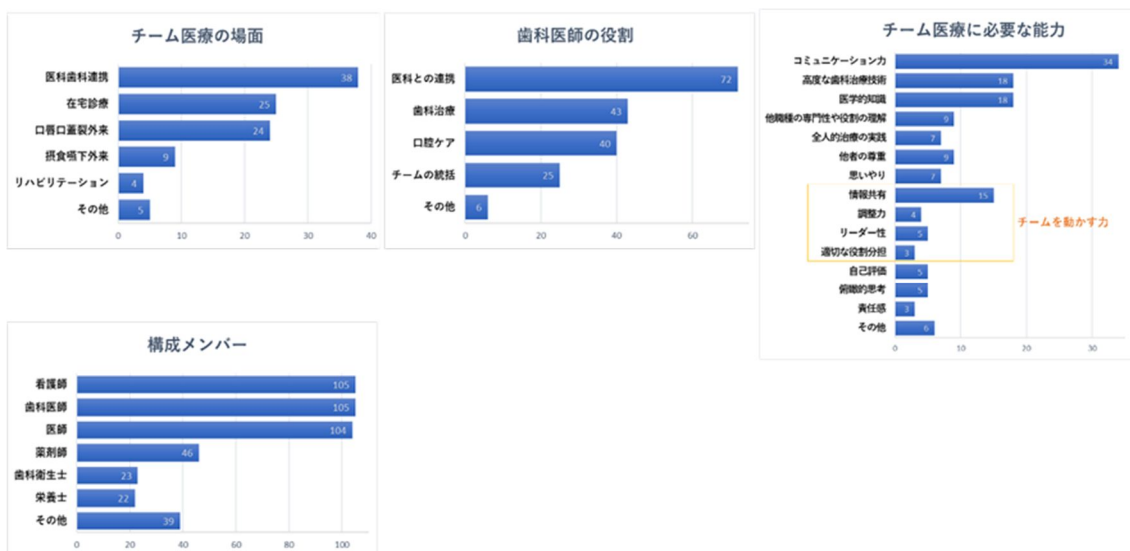
4. 研究成果

1) 医歯学教育課程における多職種連携教育の現状

ワークショップは、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士養成課程の現状と多職種連携教育の問題点の抽出、多職種連携医療の問題点の抽出、歯科領域における多職種連携教育で利用可能なシナリオ作成の3つのワークからなり、歯科領域から教員、専門職、学生、その他は医師、薬剤師、理学療法士、看護師が参加し、様々な視点からの討論がなされた。その結果、歯科専門職内で、その教育課程の特性や問題点の理解が不足していること、多職種連携における歯科の必要性は認識されているが、チームとしての積極的なかわりが少なく、医療福祉専門職の一員としての歯科のありかたを検討する必要があることが示唆された。また、多職種連携教育にあたっては、患者を中心とした多職種連携の視点が必要なこと、歯科領域から他の医療職へのアピールの必要性が示唆された。

2) 多職種連携医療における歯科専門職の役割とその認識

歯学生がイメージするチーム医療は、主に医科との情報の共有を中心とするもので、チームでの連携という視点にやや乏しく、抽象的であった。チームの構成メンバーに患者やその家族が含まれておらず、患者中心の全人的医療ではなく、医療者中心の連携としてとらえていることが推察された。また、チーム医療や連携に関するネガティブな意識も懸念された。今後は、患者や利用者を中心とした医療チームの在り方、多職種の役割の理解や関係性の構築など、具体的に体験できるような教育の工夫が必要であることが示唆された。



3) 多職種連携医療における協働の問題点

医科歯科連携におけるキーワードの認識

多職種連携に関する用語の認知状況は、歯学生ではほとんどが「知らない」「聞いたことがある」のレベルであったが、研修歯科医では「説明できる」レベルのものもあった。研修歯科医は、歯学生に比べて、「病棟関連」「器具関連」のカテゴリーの割合が高かったが、「処置関連」のカテゴリーについては差がなかった。用語を使用する場面は、医科往診、口腔ケア、口腔外科などで、臨床研修では口腔外科領域を中心に病棟で多職種との協働の機会があり、経験を通じて専門的な用語を認知していくことがうかがえた

歯科医師のコミュニケーションの特徴

研修歯科医の医療面接では、医療情報の聴取が中心で、患者の心情や背景に関する会話が少なかった。臨床経験を重ねると、発話数、特に医療情報については焦点を絞った発話が増加したことから、推理・推論しながら面接を進めていることが推察された。また、うなずきや共感の発話があるにもかかわらず、模擬患者の評価に反映されていないことから、言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの不一致があることが示唆された。

患者説明では、医療者の発話が多く、非言語コミュニケーションが少ない傾向があった。歯科医師では、医療情報の伝達が中心で、医科歯科連携の重要性について説明はされていたが、看護師、理学療法士に比べて、療養生活や環境に関する発話が少なく、連携についての具体的な情報はなかった。

4) 多職種連携医療を推進するモデル教育プログラムの構築と教育現場への応用

上記、1)～3)の結果をもとに、歯学部6年間の段階的な連携教育のカリキュラムの一つとして、歯学部4年生を対象に「チーム医療学」を開講した。本科目の目的は、チーム医療を実践するために、関連多職種の役割を認識し、協働して患者中心の医療に関わる上で必要な基本的知識、技能、態度を習得することで、患者中心の医療とコミュニケーションを基盤に協働することを中心にしたカリキュラムを構築した。患者と関係他者、多職種のかかわる臨床に即したシナリオを用い、グループワーク、シミュレーション、ディベートなどのアクティブラーニングを取り入れた。受講後のポートフォリオの内容を分析して学習者の学びを検証した。ポートフォリオの記載は、他者の理解、多職種連携の意義、歯科医師の責務、コミュニケーション、協働、歯科および医科の知識の重要性などに分類され、医療保健福祉の多職種連携コンピテンシーと同様の学びがあったことが推察された。本プログラムの概要と振り返りはシンポジウム等で公開し、各方面からのフィードバックを参考に、プログラムの改善を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Takayuki Oto, Yuko Matsumoto, Yoichiro Iwashita, Reiko Yoshida, Norihiro Taguchi .	4. 巻 6 (1)
2. 論文標題 A Qualitative Study on the Development of Professionalism Among Japanese Dental Students .	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Cureus	6. 最初と最後の頁 e51762 - e51762
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7759/cureus.51762	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口則宏、西村正宏、杉浦 剛、吉田礼子、松本祐子、作田哲也、岩下洋一朗、大戸敬之、鎌田ユミ子	4. 巻 51
2. 論文標題 COVID-19パンデミック禍における鹿児島大学での歯学教育の取り組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 525 - 527
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩下洋一朗、吉田礼子、松本祐子、大戸敬之、作田哲也、田口則宏	4. 巻 1
2. 論文標題 3Dカメラを応用した新規コミュニケーション分析方法の構築 - 医療面接中における研修歯科医の顔面の表情と動作の解析-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南九州歯学会雑誌	6. 最初と最後の頁 33 - 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田礼子、松本祐子、岩下洋一朗、作田哲也、大戸敬之、田口則宏	4. 巻 148
2. 論文標題 歯科医師臨床研修におけるヘルスコミュニケーション教育 - 模擬患者を用いた医療面接トレーニングの振り返り -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島県歯科医師会報	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田礼子	4. 巻 19
2. 論文標題 ワークショップ報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学教育の流れ	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大戸敬之, 中山歩, 作田哲也, 岩下洋一朗, 松本祐子, 吉田礼子, 田口則宏	4. 巻 11
2. 論文標題 離島地域における 歯科医療の課題 口永良部島島民の歯科ニーズについての視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本総合歯科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 鎌田ユミ子, 吉田礼子, 松本祐子, 作田哲也, 大戸敬之, 岩下洋一朗, 田口則宏
2. 発表標題 コロナ禍で地域体験実習に代わる地域歯科教育への取り組み 第2報
3. 学会等名 第16回日本総合歯科学会 総会・学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 礼子, 松本 祐子, 大戸 敬之, 鎌田ユミ子, 作田 哲也, 田口 則宏
2. 発表標題 歯学生における事例検討を用いたチーム医療教育
3. 学会等名 第16回日本総合歯科学会 総会・学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大戸敬之、松本祐子、鎌田ユミ子、志野久美子、岩下洋一朗、作田哲也、吉田礼子、田口則宏 .
2. 発表標題 ポストコロナ禍に向けた離島歯科医療実習で学生が得た学びの解明
3. 学会等名 第42回日本歯科医学教育学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田礼子、松本祐子、大戸敬之、鎌田ユミ子、作田哲也、田口則宏
2. 発表標題 歯学生のチーム医療に対するイメージ
3. 学会等名 第15回日本総合歯科学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田礼子
2. 発表標題 アクティブラーニング「チーム医療学」の実践
3. 学会等名 連携シンポジウム「健康長寿社会に向けた歯学教育改革」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大戸敬之、松本祐子、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、作田哲也、吉田礼子、田口則宏
2. 発表標題 離島の歯科医師が歯学生に求めるもの
3. 学会等名 第40回日本歯科医学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田礼子、松本祐子、作田哲也、大戸敬之、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、田口則宏
2. 発表標題 COVID-19パンデミック禍における鹿児島大学病院歯科医師臨床研修
3. 学会等名 第2回南九州歯学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田礼子、松本祐子、大戸敬之、作田哲也、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、田口則宏.
2. 発表標題 歯学生の多職種連携に関する用語の認知
3. 学会等名 第39回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田礼子、松本祐子、大戸敬之、作田哲也、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、田口則宏.
2. 発表標題 多職種連携に関する用語の認知
3. 学会等名 第13回日本総合歯科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本祐子、吉田礼子、大戸敬之、作田哲也、鎌田ユミ子、岩下洋一朗、田口則宏.
2. 発表標題 総合治療計画立案実習に対する有用性の検討
3. 学会等名 第13回日本総合歯科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田礼子, 松本祐子, 大戸敬之, 田口則宏
2. 発表標題 「チーム医療学」の新たな実践と振り返り
3. 学会等名 51回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畠中大吾, 七熊翔, 山本惇一, 浅田道雄, 大戸敬之, 作田哲也, 松本祐子, 岩下洋一朗, 吉田礼子, 田口則宏
2. 発表標題 研修歯科医が抱く総合歯科のイメージ
3. 学会等名 第12回日本総合歯科学会総会・学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iwashita Y, Yoshida R, Matsumoto Y, Oto T, Sakuta T, Taguchi N
2. 発表標題 3D Sensor for Health Professions' Education - Interaction Analysis in Medical Interview
3. 学会等名 Association for Medical Education in Europe Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	田口 則宏 (Taguchi Norihiro) (30325196)	鹿児島大学・医歯学域歯学系・教授 (17701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 祐子 (Matsumoto Yuko) (20315443)	鹿児島大学・医歯学域鹿児島大学病院・助教 (17701)	
研究分担者	大戸 敬之 (Oto Takayuki) (60754299)	鹿児島大学・医歯学域鹿児島大学病院・助教 (17701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関